

# いんげんぜんじ 隱元禪師の生涯 隱元禪師的生涯

いんげんりゅうき 隱元隆琦 (1592-1673)

中国福建省生まれ。俗名は林曾炳。明清交替期に黄檗山萬福寺(福建省)の住職を務めた。慈悲深く、高い学識と芸術性をあわせ持った当時の禅宗界をリードする高僧。

江戸時代初めに日本に渡来し、「黄檗宗」の開祖となる。また、隱元豆や煎茶の習慣など、当時の中国から多くの文物を日本にもたらした。

隱元隆琦 (1592-1673)

出生于中国福建省。俗名林曾炳。明末清初，担任黄檗山万福寺的住持。他是引领当时禅宗界，胸怀慈悲，拥有卓越学识和艺术造诣的一位高僧。

他于江戸时代来日，成为“黄檗宗”的宗祖。另外，他还带来了隱元豆、煎茶等许多当时中国的文化。

年表 赤字は隱元の事績を示し、1～6 はトピックスとして紹介。 红色字体表示的是隱元的事迹，1～6 会单独介绍。

中国でのできごと (隱元禪師中国紀事一覽)	西暦(西历)	日本でのできごと (在同时期日本紀事一覽)
隱元、福建省に生まれる。在福建省出生。	1592年	豊田秀吉が朝鮮出兵を開始(文禄・慶長の役のはじまり)。丰臣秀吉出兵朝鮮(文禄・庆长之役の开端)。
文禄・慶長の役を遠因として明が弱体化。文禄・长庆之役间接导致了明王朝的衰败。	1592年～1593年	
隱元、出家。出家。	1603年	江戸幕府成立。江戸幕府成立。
	1620年	長崎最初の唐寺、東明山興福寺開創(諸説あり)。开创长崎最早的唐寺—东明山兴福寺(说法不一) (唐寺の福济寺(1628年開創)、崇福寺(1629年開創)、と合わせて長崎三福寺と呼ばれる。兴福寺与福济寺(1628年開創)、崇福寺(1629年開創)并称为长崎三福寺。)
1 隱元、情りをひらく。开情。	1626年	
	1634年	興福寺2代住職(1635年就任)の黙子、長崎の中島川に眼鏡橋を架造。兴福寺第二代住持(1635年起任)黙子，在长崎建造了中島川眼镜桥。
隱元、黄檗山萬福寺(福建省)の住職となる。成为黄檗山万福寺(福建省)的住持。	1637年	
	1639年	鎖国体制完成。鎖国体制正式建立。
2 『隠元禪師語録』出版。大ヒット。以後生涯にわたって数回再版が出される。(『隠元禪師語録』出版、大受欢迎。在之后的生涯中依次出版再版。)	1642年	
隱元、福嚴寺(浙江省)の住職となる。成为福严寺(浙江省)的住持。明朝滅亡。清朝、北京に都をうつす。明朝灭亡，清朝迁都北京。	1644年	
隱元、龍泉寺(福建省)の住職となる。成为龙泉寺(福建省)的住持。	1645年	
隱元、再び興福寺(福建省)の住職となる。成为万福寺(福建省)的住持。	1646年	
	1648年	隱元の弟子・也懶の友人である唐僧の無心が日本に渡来。隱元の弟子，也懶的友人—唐代僧人无心东渡赴日。
	1649年	無心、也懶を日本に招く。しかし也懶は船が難破して死亡(1651年)。またこの年、輸入された『隠元禪師語録』が京都の仏教界でセンセーションを巻き起こす。以降、隱元の名は日本国内に急速に広まることとなる。无心邀请也懶来日，在来日途中遭遇沉船之灾，不幸身亡(1651年)。同年，《隠元禪師語録》传入日本，引起京都佛教界的轰动。此后，隱元在日本国内名声鹊起。
	1652年～1653年	興福寺3代住職・逸然をはじめとする長崎の唐人社会が、隱元に度重ねて渡来を要請。以兴福寺第三代住持・逸然为首的长崎华侨界再三邀请隱元返日。
臨済目の要請でついに隱元中国を立つ。历经四次邀请，隱元终于动身赴日。	1654年	3 隱元、長崎に上陸。興福寺や崇福寺で多くの言葉をのこす。今は『普賢圖説』中に伝わる。隱元抵達长崎，在兴福寺和崇福寺留下了许多教义。后收录进《普賢圖説》，世代流传。
	1655年	隱元、慈雲山普門寺(大阪府高槻市)に入る。到访慈云山普門寺(大阪府高槻市)。
	1658年	隱元、4代將軍・徳川家綱と会見。与4代將軍・徳川家綱会面。
	1661年	4 隱元、黄檗山萬福寺(京都府宇治市)を開創。开创了黄檗山万福寺(京都府宇治市)。
鄭成功、台湾で没する。郑成功在台湾去世。	1662年	
	1664年	5 隱元、慈雲の說法。(この年、池を掘り放生する) 隱元胸怀慈悲传授佛教教义。(这一年，建了放生水池)
	1673年	6 隱元、示寂。 隱元圓寂。



## 1 悟りと公案 35歳(1626年) 觉悟与参禅课题 35岁(1626年)

禅宗では、悟りの境地は言葉によって説明することはできず、師と弟子の間で心から心へと伝えられる。その悟りの立場から発する奇抜な言動が禅問答として遺されている。これらは後に、禅を学ぶ者にとって修行を深めるよすがとして活かされるようになった。これを公案という。

ある日、隠元が先輩の僧・五峰と禅問答をしたところ、満足のいく応答が出来なかった。

それからしばらく隠元は茫然と暮らす、ある日窓から一陣の風が吹き、途端に悟ったとされる。

隠元は悟りの内容は「他人にはわからない」と言い、また口にはすれば魔境に入ると言い、誰にも語らなかつた。

そんな隠元を見て、五峰は彼をみんなの前に呼び出し、再び問答を挑んだ。

在禅宗教义中，觉悟的境界是不能用语言来解释的，它需要师傅与弟子之间的心心相通传递的。有了这样的觉悟得出的言论，作出的行动会作为禅修问题记录下来。之后，这些禅修问答成为后人加深修行的学习资料，称之为参禅课题。

某日，隐元与僧人前辈五峰进行禅问答，但是并未得到满意的答案。

之后隐元茫然度日了一段时间。有一天，忽然一阵清风从窗户吹来，他顿悟了。

隐元认为自己领悟到的东西不可与人相谈，一旦相谈便会陷入魔界，因此他不曾向任何人说起。

看到这样的隐元，五峰将他叫到大家面前，再度发问。

悟ったなら言ってみろ  
悟到了什么，说来听听

言うのは簡単だが、  
みんながびっくりしてしまう  
说来容易，  
但是会让大家吓一跳

大丈夫だから言ってくれ  
不碍事，说吧

…  
(無言でとんぼを  
切つて帰る)  
(一言不发地翻了个跟头就走了)

本当に悟ったようだ  
看样子，他是真的悟透了

隠元の無言のバク転を見て、五峰は納得した。  
高僧の間では、もはや言語そのものさえ不要となるのである。

看到隐元无声地翻跟头的行为，五峰信服了。  
高僧之间，本身就无需言语交流。

## 2 「隠元語録」堂々出版! 51歳(1642年) 《隠元语录》正式发行! 51岁(1642年)

説法や禅問答を中心に隠元の言動をまとめた語録『隠元禅師語録』がこの年にはじめて中国で出版された。

「語録」は中国国内で大ヒットし、再版が繰り返され、ほぼその都度最新の言動を順次付け足されていった。

この最初の「語録」は日本にも輸出され、京都の仏教界を中心にその名が広まるきっかけとなった。特に妙心寺(京都府京都市)の高僧である禿翁・龍溪両名に大きな影響を与え、隠元は彼らの要請により京都・江戸に赴くことになる。

这一年，以佛教教义和禅修问答形式为主，收录隐元言行的《隐元禅师语录》在中国出版。

《语录》在中国国内大受欢迎，多次追印，每次再版都会加入隐元最新的言行内容。这第一本《语录》也传到了日本，成为隐元在以京都为中心的佛教界声名鹊起的契机。这本语录尤其深深打动了妙心寺(京都府京都市)的禿翁，龙溪两位高僧的心，之后，隐元也是受他们二位之邀前往京都和江戸(现为东京都)。



「興福寺蔵 隠元禅師語録」一冊 刊行十五年版 国立公文書館蔵  
《隠元禅师语录》一册 1642年版扉页 国立公文書館蔵

## 3 隠元来日 63歳(1654年) 隠元来日 63岁(1654年)

長崎唐人社会からの度重なる求めに応じ、ついに隠元は渡来を決意する。周囲が引き留めるのに対して、三年で帰ることを条件に日本へ向かった。

この船の中で隠元は、明末清初の動乱の中、置き去りにした人々を思いつつ、重く深い懊悩を抱えていたという。7月5日夕方、ついに長崎着。この夜、海上の全ての漁師が、長崎の空に赤い光が走るのを見たという。

興福寺にはじめて訪れた時の、寺の造作に対する賛美が「語録」にある。山門や本堂などの一つ一つに、仏教用語をちりばめた学識の深さがうかがえる感想をのこしている。

隠元は来日した翌日には興福寺にはいり、18日に説法した。数千人の聴衆が押し掛ける盛大なものとなった。来日の翌日から隠元一行の動静を観察していた長崎奉行二人もここに参加し、隠元らを信用したようで、幕府に渡航目的を「仏法を広めるため」と報告している。

8月、興福寺にて隠元の指導のもとで修行が行われた。日中双方の僧侶は言葉が通じないため、隠元も氣遣いすることひとしおであったという。また、興福寺では「万国の春」と題した詩をよんでいる。日本の平和を愛でたものである。

应当时长崎华人界多番请求，隐元终于决心来日。面对周围人的挽留，他以三年内回国为条件，向日本出发。

据说在船上的隐元，忧心牵挂着遭受明清战乱痛苦不堪的民众们，感到深深地悲痛和懊恼。

7月5日傍晚，隐元终于抵达长崎。这天夜里，海上的所有渔民都看到了在长崎上空闪耀着的红光，那是希望之光。

隐元初次到访兴福寺时对于寺庙的建造工艺的赞美之词收录进了《语录》。山门，大殿等寺庙里的每一处都留下了他充满智慧和学识的感想与言语。

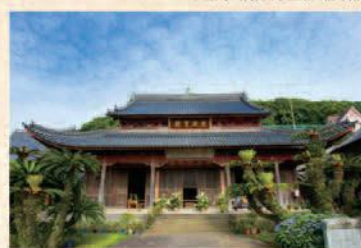
隐元来日第二天便进入兴福寺，于18日进行说法。数千名听众蜂拥而至，场面盛大。来日第二天起开始观察隐元一行行踪的长崎奉行二人也参加了说法，之后如同相信了隐元一行的来意一般，向幕府报告称隐元一行确为专程「传播佛法」而来。

8月，兴福寺众僧在隐元的指导下开始修行。传闻因中日双方僧侣语言不通，隐元需多方操虑。隐元在兴福寺作了题为“万国之春”的诗歌，以此表达对当时日本和平的热爱。

隠元降崎尺牘 第一請啓復書 京都萬福寺蔵  
尊請隠元来日の书信及隠元回信 京都万福寺蔵



大雄宝殿本堂 外観 興福寺蔵  
兴福寺山門、大雄宝殿兴福寺蔵



「万国の春」  
万国の春 興福寺蔵  
興福寺僧



## 4 隠元、将軍と会見 67歳(1658年) 隠元与将军会面 67岁(1658年)

隠元を慕う京都妙心寺派の僧侶たちは、隠元とともに四代将軍・徳川家綱(この時17歳)と面会した。

その後、幕府は隠元に敬意を表し宇治に土地を与え、さらに寺院建立の費用を用意し、日本に留めた。この土地に建てられたのが萬福寺である。

仰慕隠元の京都妙心寺派の僧侶們，与隠元一起会见了四代将军徳川家綱（将军当时17岁）。

之后，幕府为了表示对隠元の敬意，为他在京都宇治置地，准备建寺费用，以此挽留隠元。后在此建起的寺庙即为今京都万福寺。



大隆(外題) 京都萬福寺藏

## 5 隠元、慈愛の説法 73歳(1664年) 隠元胸怀慈愛的说法 73岁(1664年)

三年という約束で日本に渡来したにもかかわらず、多くの者に引き取られ、隠元は70歳を過ぎても日本に滞在していた。

隠元の暮らしは穏やかなもので、慈悲の精神はますます強まっていたようである。

ある日、放生会のおとで役人たちが相談を持ち込んできた。

※放生会：捕獲されている動物を野に帰すことで、殺生をいましめる儀式のこと。江戸時代にはいわゆる「おまつり」のような娯楽としての一面も持つようになった。

虽然已过了约定回国的三年之期，但因当地很多人的挽留，隠元直到年过七旬仍然留在了日本。

隠元的生活很安稳，慈悲胸怀也更入佳境。

某日，在一次放生会后，官员们来求隠元指导迷津。

※放生会：将捕获的动物放归原野，用以警戒杀生的仪式。江戸时代将其作为庆典的一种，具有一定的娱乐性。



役人

私たちは仕事で罪人を殺すこともありますが、私たちをお釈迦さまはおゆるし下さるでしょうか？

官员

我们有时会因工作杀死罪犯，佛祖会原谅我们吗？



隠元

「天命」に従い行うことなのでお釈迦さまはおとがめにはならない。ただ、あわれみの心を持つことで、罰せられる人の魂を救うことができる。

遵从

‘天命’的行为，佛祖是不会怪罪的。只有怀着悲怜之心，才能拯救受罚者的灵魂

隠元は、宗教者に対しては戒律を重視し、かつ修行も厳格な態度で行い、また権威にこびることもなかった。しかし、一般の人々に対しては優しく、またわかりやすい言葉で語る人物でもあったのである。

隠元の慈愛にみちた人柄は、『黄檗山隠元咄』(戒殺・放生の物語)が江戸で刊行されたことで、さらにひろく知られることとなった。

隠元要求弟子严格遵守戒律，并对修行持十分严肃的态度，从不向权威低头谄媚。同时他对普通民众温和向善，平易近人，是位德高望重的高僧。随着《黄檗山隠元咄》(戒杀・放生故事集)在江戸发行，隠元の仁慈品格更加广为人知。

## 6 示寂 82歳(1673年) 圓寂 82岁(1673年)

82歳の4月3日早朝、隠元は自らの死期が迫ったことを悟った。正午に左右の者の助けで起き上がり、水で手と顔を洗い趺座。しばらくして「遺偈」(禅僧が末期に臨んで後人のために遺す詩句)をしたためて、座ったまま目を閉じ、午後2時、示寂。

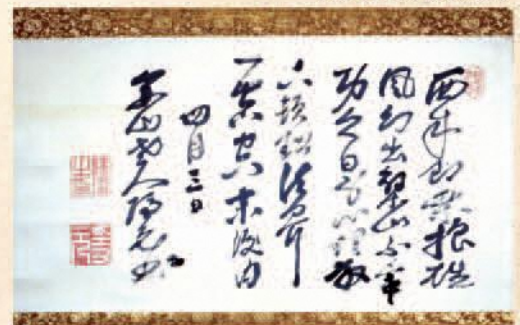
遺偈意識：「中国の古黄檗から来た自分は、雄風を振ってこの地に黄檗山を幻出させたが、自らの功績ではない。いまや身と心を打ち捨て、意識を超えて、思慮を絶した真空の境地と一つなのだ」

意識出典：九州国立博物館編『黄檗—BAKU 京都宇治・萬福寺の名宝と禪の新風』(西日本新聞社、2011年)p.229

8 隠元 82 岁那一年 4 月 3 日清晨，他预知到了自己的生命即将走到尽头。正午时分，他在身边人的帮助下起身，盘腿端坐着用清水洗手和脸。过一会儿，写下了“遗偈”(禅僧临终时为后人所写的诗句)，之后坐着闭上了眼睛。于当天下午两点圆寂。

遺偈大意：“来自中国黄檗祖庭的我，使出浑身解数将此地变为如黄檗山祖庭一般，但这并非我一人功劳。如今我将舍弃真身，与超越意识，远离尘器的真空仙境融为一体。”

意译文出处：九州国立博物館編《黄檗—BAKU 京都宇治万福寺的名宝与禅之新风》(西日本新聞社，2011年)p.229



隠元隆琦 墨蹟遺偈 京都萬福寺藏  
隠元隆琦 墨蹟遺偈 京都萬福寺藏